

# あとかき

～ 5 冊目の刊行を終えて～

石 隈 利 紀

「科学の芽」賞は、早いもので昨年度 10 周年を迎え、今年度で第 11 回になります。毎年、小学 3 年生から高校生までのみなさんが、日本はもとより海外の日本人学校からも 2,000 編を超える作品を寄せてくださっています。そうした応募作品の中からていねいで厳正な審査を経て、毎年約 20 編ほどの作品が選ばれ「科学の芽」賞を受賞しています。

本書の『もっと知りたい! 「科学の芽」の世界』は、2 年ごとに出版され、今回で 5 冊目の出版になります。本書には一昨年の第 9 回と昨年の第 10 回（10 周年記念）の「科学の芽」賞の受賞作を収録しました。児童生徒のみなさんの新鮮な感性とふしぎさを追い求める探究心に満ちた作品が集まっています。

本書を読むと、宝石の原石に匹敵する作品に、読後はなるほどと思ったり、感心したり、この先は、どんなことに発展するのだろうかと興味がそそられたりします。子どもたちが、研究を進める視点、自ら作成する研究の道具や装置、研究のまとめ方と選んだ言葉に、心から凄いなと感心します。将来ノーベル賞を取るかもしれないという期待も抱かせるような作品群です。手に取り、子どもたちの科学する心を受けとってほしいと思います。

また、これから、調べて、研究したいと考えている児童生徒のみなさんには、今の疑問を明らかにするにはどうしたらいいのか、どんなふうに調べるかなど、研究をしていくためのヒントが、本書にはたくさん書かれていますから、ぜひ参考にしてほしいと思います。

昨年度の第 10 回「科学の芽」賞の授賞式では、10 周年を記念して、永田恭介筑波大学長から「学長特別賞」が 1 つの作品に贈られました。小学生から高校生までの優秀な作品から、1 つを選ぶのはたいへんな課題ですが、永田学長は「科学の芽」のふしぎだと思ふ視点に焦点をあてて、小学 4 年生、長野佑香さんの「最後までおいしいふりかけのひみつ」に特別賞を授与しました。特に「身近な題材に着目し、モデル実験を経て最後にはおいしいふりかけを作ったこと」が評価されました。受賞した長野

さんは、とてもびっくりしていました。会場も暖かい雰囲気で包まれました。

私は小学校の頃は野口英世の本を読んで科学者になりたいと思っていました。高校の頃は弁護士にあこがれ、現在は心理学やカウンセリングの研究をしています。今でもだれかの役に立ちたいという思いを持ちながら、ふしぎだと思う気持ちを持ち続けることで、調べることを仕事にしています。

「科学の芽」賞は、筑波大学が社会貢献の意味も含めて朝永振一郎先生の生誕100周年を記念して作ったものです。そして10周年を重ねたのです。朝永先生のいわれた「科学の芽」が、全国のさまざまなところで、茎を伸ばし、花が咲いていることをうれしく思います。科学に興味を持って学ぶ子どもたちが少しでも増えてくれることを今後とも願っています。科学は私たちの未来の社会を拓く力です。本書が、子どもの成長と社会の未来へ向けた歩みに少しでも貢献できることができればこんなにうれしいことはありません。

〔前「科学の芽」賞実行委員会委員長〕